

トラック輸送情報（平成22年4月分）

平成22年7月27日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：中野、久島、菊池 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

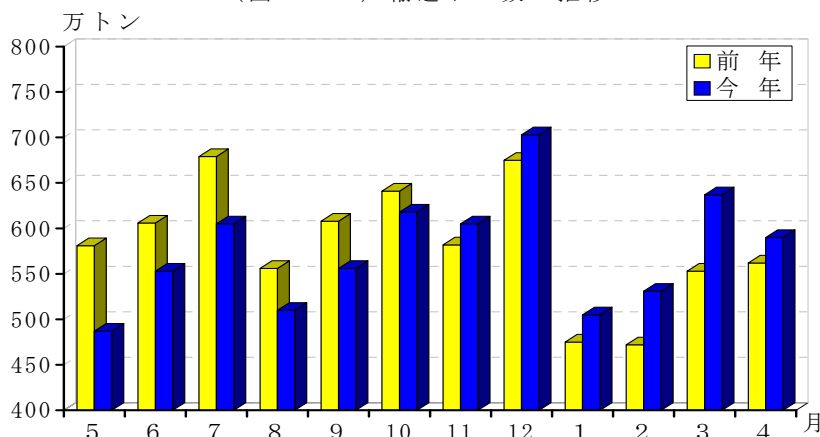
調査対象27社の本月の輸送量は、5,897,429トンで、前月と比べ総輸送量が約47万トン減少したため、前月比92.6%（季節調整済み95.5%）となり、前年同月との比較では、約28万トン増加したため、前年同月比105.0%の実績であった。

なお、平均稼働日数は24.6日で、前月と比べ0.8日減少し、前年同月と同日数であった。稼働1日当たりの輸送量は、239,733トンで、前月と比べ約1万1千トン減少したため、前月比95.6%となり、前年同月との比較では、約1万1千トン増加したため、前年同月比105.0%の実績であった。

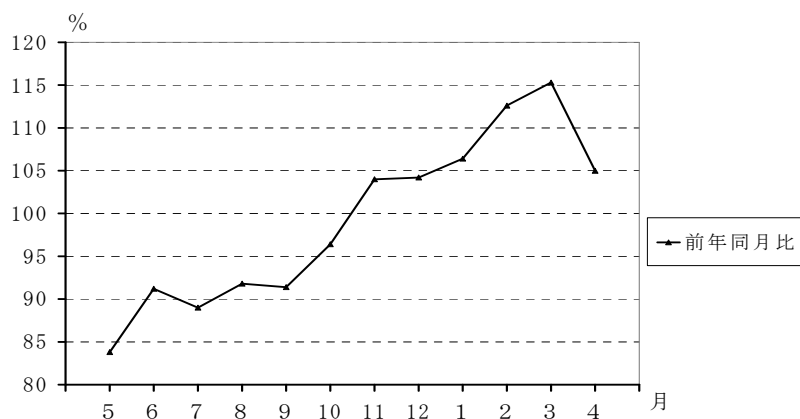
（図1-1、図1-2参照）

注）平成21年4月から貨物輸送の調査対象については、1社増え、27社となった。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比



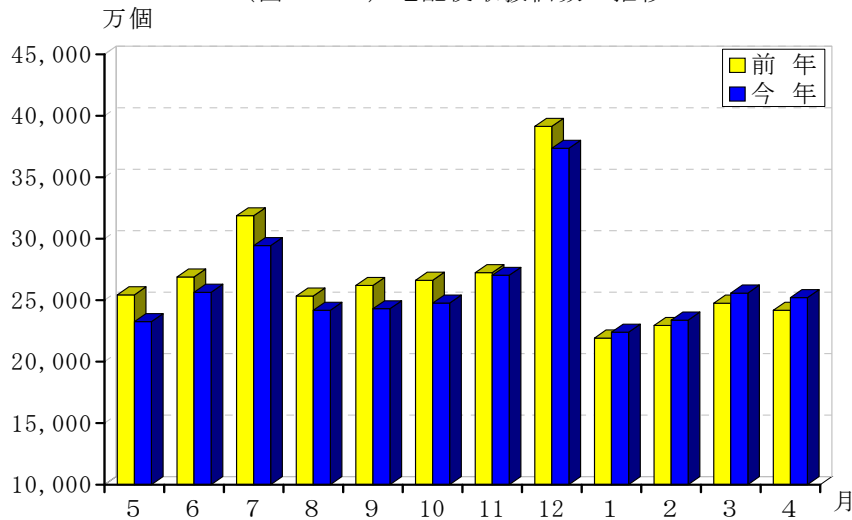
(2) 宅配便の概況

調査対象 18 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、252,078 千個で、前月と比べ 約 377 万個減少したため、前月比 98.5% (季節調整済み 100.5%) となり、前年同月との比較では、約 1,028 万個増加したため、前年同月比 104.2%の実績であった。

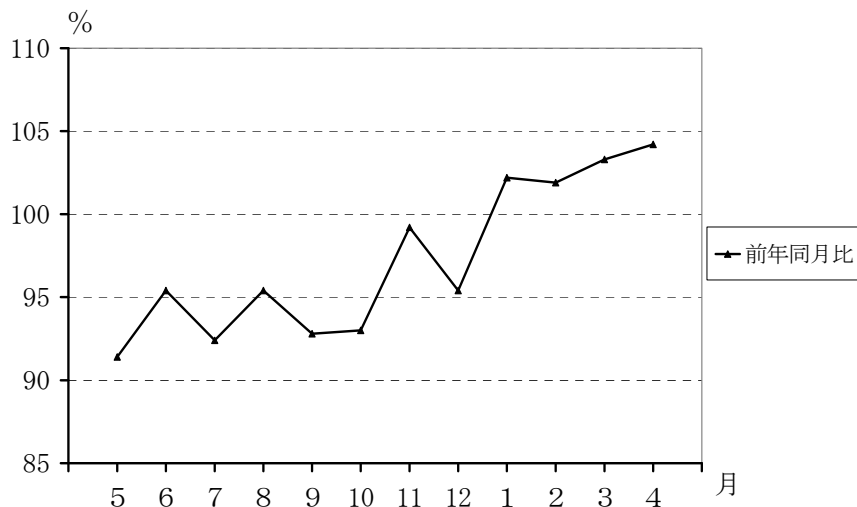
(図 2-1、図 2-2 参照)

注) 平成 22 年 4 月から宅配便輸送の調査対象については、1 社減り、18 社となった。

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、稼働日数の減少や決算期の終了等により、ほぼ全ての品目で輸送量が減少した。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減がほぼ全ての品目に共通してみられたほか、「金属製品」、「日用品」、「その他 (百貨店配送品)」では季節的需要減等も要因となっている。地域的には、「金属製品」、「機械」が東京、関東、北陸信越、愛知、近畿地方、中国等で減少したほか、「日用品」が北海道、東北、関東地方、近畿、中国等で減少している。

前年同月と比べると、工場・生産地からの貨物増により「機械」で輸送量の増加がみられた一方で、工場・生産地からの貨物減等により「農水産品」、「日用品」等で輸送量が減少している。地域的には、「機械」が東京、関東、北陸信越、中部地方、中国で増加がみられた一方で、「農水産品」が九州で、「日用品」が北海道、東北、関東で減少している。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 らず	減	著 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	10	5	1	農産品	北海道、東北、九州	4
	金属製品			15	6		その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 8
	機 械	2	11	7	1		電気機械、機械部品	東北、東京、関東、北陸信越、愛知、近畿地方、中国	4, 5
	化学工業品		3	11	8		合成樹脂	神奈川、関東	4
	繊維工業品		1	15	6		糸	神奈川、関東、中部地方	4
	食料工業品		4	11	5		その他の食料工業品	神奈川、北陸信越、中部地方、大阪、福岡	4
	日 用 品			12	9	1	書籍・印刷物、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、近畿、中国、全国	4, 5, 8
	そ の 他	2	1	8	8	3	百貨店配送品	神奈川、全国	2, 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		1	13	3	1		九州	4
	金属製品	2	1	14	4		その他の金属製品	北陸信越、中部地方、大阪	
	機 械	2	5	11	3		機械部品	東京、関東、北陸信越、中部地方、中国	4
	化学工業品		4	13	5		その他の化学工業品	中国	7
	繊維工業品	2	1	13	6		織物	愛知	
	食料工業品		2	13	5		飲料、その他の食料工業品	神奈川、関東、北陸信越、近畿	7
	日 用 品		3	12	6	1	書籍・印刷物、その他の日用品	福岡	4
	そ の 他		4	8	7	3	百貨店配送品	東京、関東	7
							北海道、東北、関東	4, 5, 9	
							中部	4	
							百貨店配送品	神奈川、全国	2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市県を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市県を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 779 社／調査対象事業者数 1,088 社）の輸送量は、前月比 96.7%、前年同月比 106.7%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	96.7%	103.5%	93.2%	93.9%	93.7%	97.3%	93.9%	88.7%	96.3%	97.6%	95.9%
前年同月比	106.7%	109.2%	106.0%	106.2%	106.9%	107.1%	102.1%	112.3%	101.9%	104.9%	98.8%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送は、対前月比 103.5%、対前年同月比 109.2%であった。品目別には、輸出入の貨物増等により「石炭」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「化学肥料」等の輸送量が増加している。一方、工事の減少等に伴う建設関連の需要減等により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「セメント」等の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減等により「紙・パルプ」等の輸送量が、季節的需要減等により「その他の石油製品」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向と予想される。
東北	本月の輸送は、対前月比 93.2%、対前年同月比 106.0%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「鉄鋼」、「非鉄金属」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「化学肥料」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
関東	本月の輸送は、対前月比 93.9%、対前年同月比 106.2%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増により「紙・パルプ」の輸送量が増加した。一方、不況の影響等により「揮発油」、「日用品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
北陸信越	本月の輸送は、対前月比 93.7%、対前年同月比 106.9%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増により「木材」等の輸送量が増加した。一方、不況の影響等により「鉄鋼」、「機械」、「セメント」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
中部	本月の輸送は、対前月比 97.3%、対前年同月比 107.1%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増により「工業用非金属鉱物」の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「機械」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
近畿	本月の輸送は、対前月比 93.9%、対前年同月比 102.1%であった。品目別には、季節的需要増等により「化学肥料」等の輸送量が増加した。一方、不況の影響等により「その他の化学工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
中国	本月の輸送は、年度末である前月の反動で対前月比 88.7%、対前年同月比 112.3%であった。品目別には、季節的需要増等により「水産品」等の輸送量が増加したほか、景気回復の兆し等により「木材」、「その他の製造工業品」等の輸送量が増加している。一方、工場・生産地からの貨物減等により「鉄鋼」等の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「機械」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月はゴールデンウィークがあることから稼働日数の減少により輸送量は減少傾向、以降も減少傾向と予想される。
四国	本月の輸送は、対前月比 96.3%、対前年同月比 101.9%であった。品目別には、季節的需要増等により「食料工業品」等の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減により「鉄鋼」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降はほぼ横ばいと予想される。
九州	本月の輸送は、対前月比 97.6%、対前年同月比 104.9%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「化学肥料」等の輸送量が増加した。一方、デパート・スーパーの貨物減等により「食料工業品」の輸送量が減少したほか、年度末の工事終了等に伴う建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「その他の製造工業品」、「廃棄物」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、宮崎県で発生した口蹄疫の影響が出ることが予想され、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
沖縄	本月の輸送は、対前月比 95.9%、対前年同月比 98.8%であった。品目別には、輸出入の貨物増により「紙・パルプ」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「取り合せ品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局	北	東	関	北信	中	近	中	四	九	沖	全
		道	海	北	東	陸	越	部	畿	国	国	州	縄
1. 穀	物	増	1	2							1		4
	減	2	1			1					2	1	7
2. 野菜・果	物	増					1			1	6		8
	減		1						1		3		5
3. その他の農産品	増	1							1	1	1		4
	減								1			1	2
4. 畜産品	増	1											1
	減	1	1	1					1	1			5
5. 水産品	増	1				2	1		2				6
	減	1							1		1		3
6. 木材	増	2	2			2			3				9
	減	2	1									1	4
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増	3											3
	減												
9. 金属鉱物	増										2		2
	減												
10. 砂利・砂・石材	増	6	1			1					2		10
	減	7	2				1		3		6		19
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1			3	1						6
	減	3	1			1			1		1		7
12. 鉄鋼	増		3	1				1					5
	減	3				2		1	3	1		1	11
13. 非鉄金属	増		1										1
	減										1		1
14. 金属製品	増	1				1		1			1		4
	減		1			3		4	5	1	3		17
15. 機械	増		1	1		1		1	2	1		1	8
	減	1				3	3		6		4		17
16. セメント	増	4									5		9
	減	7				2			3		7		19
17. その他の窯業品	増										1		1
	減		1					1			1		3

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
18. 揮発油	増	1	1									2
	減	1	1	2	2							6
19. その他の石油製品	増	1			1		1	1				4
	減	4	1		1			1	1	1		9
20. コークス・その他の石炭製品	増											
	減											
21. 化学薬品	増					1						1
	減				1							1
22. 化学肥料	増	5	1				1	1		2		10
	減	1	3		1				1	1		7
23. その他の化学工業品	増		1					1				2
	減	2	1				2	2				7
24. 紙・パルプ	増		1	1	1		1			3	1	8
	減	2			1		1		1	1		6
25. 繊維工業品	増				1							1
	減							1	1			2
26. 食料工業品	増		1	1	3		3	4	3	5		20
	減	1		1	1	1	3	2		8		17
27. 日用品	増		1		1		1	1		4		8
	減	2		4			1	3		2		12
28. その他の製造工業品	増							3		2		5
	減		1					1		3		5
29. 金属くず	増							1				1
	減										1	1
30. その他のくずもの	増									1		1
	減							1				1
31. 動植物性飼・肥料	増	3	1	2						1		7
	減		1	1								2
32. 廃棄物	増									2		2
	減	4						1	2	6		13
33. 輸送用容器	増							2				2
	減	1							1			2
34. 取り合せ品	増	1	2			1		2		4		10
	減		2			1	1	2		3	4	13
35. その他	増			4	1			2		1		8
	減		1	2			4	10				17